

週間感染症情報

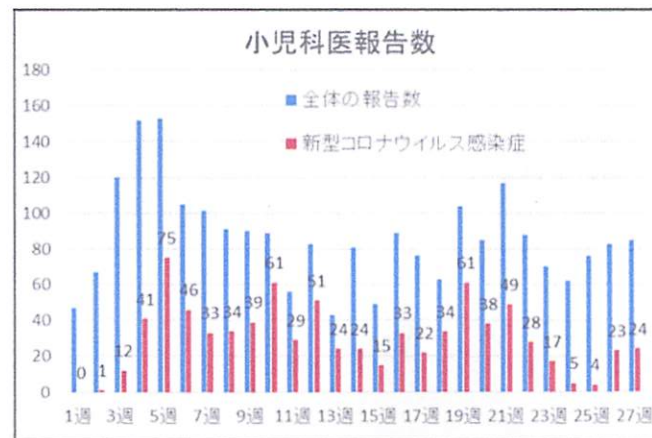
2022年25-27週 2022年6月20日より2022年7月10日まで

25週 26週 27週

麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)		1	
ムンプス(おたふくかぜ)			1
百日咳			
溶連菌感染症	2	2	
手足口病	1	3	2
ヘルパンギーナ			
伝染性紅斑			
感染性胃腸炎	54	41	41
ロタウイルス(再掲)	1		
便アデノウイルス(再掲)			1
突発性発疹	4	4	3
伝染性膿痂疹(とびひ)	1	4	6
ヘルペス性口内炎	1		
アデノウイルス感染症	8	5	7
RSウイルス感染症			
マイコプラズマ感染症			
ヒトメタニューモウイルス			
新型コロナウイルス感染症	4	23	24
インフルエンザ A			
インフルエンザ B			

報告が遅くなりました。25-27週の3週間の報告です。下のグラフの様に新型コロナウイルス感染症の報告数は26週より増加しています。市内保育所でクラスターが発生して、家族内感染を含めて増加しました。さらに28週になり市内小学童保育でクラスターが発生して、家族内感染を介して地域での感染が拡大しています。潜伏期間は2日程度と短縮しており、ほとんどが家族内感染を起こしています。20日より夏休みに入ります。小児での感染は減少することを期待していますが、学童保育・部活動などでクラスターの発生が心配されます。オミクロン株の流行でワクチンの感染予防効果は低下していますが、3回接種により重症化予防効果は保たれています。小児のワクチンについても、重症化予防効果はあります。小児のワクチンの抗原量は大人の1/3で、発熱などの副反応も少ないですが、効果も少し劣ります。しかし、今、ワクチンを打てない小児の感染が拡大し、感染者が多いと重症で入院が必要な症例や亡くなる症例が出てきます。周囲がワクチン接種することはもちろん大切ですが、ワクチン接種が可能な5歳から11歳の小児も、よくメリットとデメリットを考えて接種をして欲しいと思います。

手足口病、アデノウイルス感染症、感染性胃腸炎、など小児の感染症が増えています。今までは地域の感染情報を参考にして、周囲のコロナ感染情報・家族の体調不良など、問診でコロナ感染の可能性の高い症例には、PCR検査等をしていましたが、今まで以上に検査の閾値を下げる必要を感じています。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)